

第 4・5 回会議で出された主な意見 (家庭との連携や基本的生活習慣の向上)

学校に関する意見

教員の子どもと向き合う時間の確保のため、提出書類等の精査をする事務補助を置く。

先生が保護者に対して、自らの子育て方針を述べ、「親も一緒にやって下さい」ということを言えばとてもインパクトがある。

保護者との関わり方は「あきず、あせらず、あきらめず」続けることである。

子ども自身が発達段階に応じて「自らの健康や学力、成長のためには早寝早起きなどの生活習慣を自立・自発的に作っていく」ということを積み上げ、学び取る必要がある。

家庭に関する意見

最低限、食事の時にはテレビを見ないといった「ノー・テレビ・タイム」の実施を各家庭で意識的に取り組む必要がある。

妊娠中が子育てについて一番ゆっくり落ち着いて考えられる時期であるため、親としての役割の大切さなどの啓発をこの時期に行うことが必要。

保護者は、食事・栄養バランス・早寝など、子育てについて様々なことに気をつける必要があるので、子どもの生活習慣が最も向上するのはどの部分なのか、それを絞るための仕組みがあれば子育てがしやすい。

しつけの基本は、親が共感し、励まし、喜ぶことである。子どもは、それに応えようと、ますますやる気になる。

共働き家庭における、子どもの生活リズムの乱れや睡眠不足は、親の生活リズムが影響している。

親がきちんと叱るということは大事だ。

子どもの身体の成長には規則的に寝るなど規則正しい生活習慣が必要である。子どもは食べて寝て運動しないと、健やかに成長しない。特に低学年は成長期なので、その重要性を保護者達に理解してもらう必要がある。

保護者は生活リズムと成績との関連性が分かっていないので、それらをつなげるための環境づくりが必要である。

生活リズムをつけるためには、早く寝て、早く起きること。朝食をとるまでに、少し余裕がもてるような起き方するということが大事だ。

一番の問題は「遅寝」であり、それが早起ができないことや朝食の欠食の原因になっている。

軽い体操やゲームなどの運動をすると、お腹も空き、ご飯も食べられ、夜眠れると同時に、親子での係わりや、運動する楽しさを味わえる。

遅寝が問題なので、「北九州市の子どもは早く寝る」ことに絞ってプロジェクトやキャンペーンに取り組んではどうか。

小学校中学年以上になれば、「生活習慣向上について話し合い努力する」といった子ども自身の取り組みであることを、アピールする必要がある。

「子どもを育てる10か条」は項目が多い。家庭教育や基本的な生活習慣の向上など、「テーマ」ごとに、多くても3つ程度に絞り、覚えやすくしたほうがよい。

「早寝、早起き、朝ごはん」など生活のリズムづくりを定着させることが重要で、そのために家庭・学校・地域が三位一体で取り組む必要がある。また、その必要性を記したQ & A的な資料があれば、学校に来られない保護者なども理解できる。

地域・社会に関する意見

地域ボランティアのすそ野を増やしていくには、市民センターの館長や職員のコーディネート能力が求められる。

家庭教育学級については、働く親が増えて人が集まらないため、必要な時に必要な予算を措置するといった柔軟な対応が望まれる。

子どもが「何時になったら寝る」という習慣を身に付けるためには、子ども自身の努力も必要だが、運動や遊びなど思いきりエネルギーを放出できるような活動と場の充実も必要だ。

親子が子どもとゆっくり向き合うためにはゆとりが必要であり、そのため、社会全体で家族が一緒にいることができる時間の確保や働き方の見直しの必要がある。

遅寝の解決のため、24時間眠らない社会、眠れない社会を作ってしまった社会への提言という視点が必要だ。

早く寝かせる方法を、社会全体で考えていくことが必要で、例えば北九州市では24時間営業しないということとはできないか。

子ども向けのドラマが10時台にあるのは、家庭で努力することができないので、もっと社会的な部分を訴えかけていかなければいけない。

早く寝ることができたら、子どものメディアとの接し方など、子どもの文化をどうやって支えていくかといった、取り組みを連動させることも必要だ。

アンケートでは、子どもは地域の人に挨拶していると回答しているが、これが実感できないのは、顔見知りの人には挨拶できるが、そうでなければ挨拶しないなど、子どもと地域との結び付きが弱いということが課題として現れている。

その他の意見

挨拶と規範意識について、アンケートでは、概ね「できている」との結果となっているが、実際の印象との間にギャップがある。多くの子どもが挨拶の仕方が分かっていないことをとても懸念している。

挨拶や基本的な生活習慣の問題は、大きなうねり、市民運動とすべき教育課題だ。

スポーツは、規範意識を身につけたり、挨拶ができるようになったりするなど、大きな力を持つので、もっと利用し役立てていただきたい。

適度に運動する場を確保しなければ、体力が低下し、子育てなど生活の様々な場面で支障をきたす可能性がある。

子どもに目の前で本物のスポーツを見ることができるような機会を与えてあげられれば、子どもがもっと元気づくのではないかな。

「子どもを育てる10か条」の普及という取り組みだけでは不十分である。

「子どもの生活習慣条例」が出来れば、北九州市の教育は大きく発展する。

ポスターやパンフレットを作成するだけでは、家庭教育の課題は解決しない。

PRのためのポスター等は、公的機関だけでなく、電車やバス、繁華街など人目につく場所などに張るなどの工夫が必要だ。

退職校長会などを活用すれば、家庭学習用の手づくりプリントや家庭教育資料などについて、良いものができる。

道徳は、マニュアルを作り、保護者に理解をいただきそれからしつけをする。予算があれば、テレビ等で子どものしつけに関するものを流せば、いい結果が出るのではないかな。